

一般財団法人 語学教育研究所主催 2025 年度講習会のご案内

授業づくりワークショップ (略号: W1~W14) 【対面】

対面開催・20名限定! 実習を通して達人講師が授業づくりのコツを丁寧に教えます。

パーマー賞受賞者に学ぶ極意 (略号: P1~P7) 【オンライン (OL)】または【対面】

卓越した授業力を持つ受賞者の理念と実践から、より良い英語授業へのヒントが得られます。

ア・ラ・カルト講座 (略号: A1~A18) 【オンライン (OL)】または【対面】

経験豊富な講師による様々なテーマのセミナー、ワークショップです。

①~⑳は講座の種類に関係なく日程順の番号です。対面かオンラインかをご確認の上、お申し込みください。
対面の会場: 語研オフィス (〒116-0013 東京都荒川区西日暮里6丁目36番13号サザンパレス西日暮里102)

申込み: 語研ウェブサイト <https://www.irlt.or.jp/>

「講習会」から各回のフォームに必要な事項を入力しお申し込みください。

参加費: 会員 3,000円 非会員 5,000円 (年度初期費用 2,000円) * 学生各半額年度 初期費用 500円

講座内容詳細 (日程順)

①A1 【OL】 中学校英語の基盤となる小学校英語での学び 4月29日(火祝)
～「聞いて、やり取り」をし、「読めることを、書こうとする」子どもたち～ 14:00~16:00

講師: 久埜 百合 (中部学院大学・学事顧問)

小学3年生(8歳の後半~9歳の前半)で始まる「外国語活動」では、日本語とは異なる英語独特の音調やリズムを「やり取り」の間に触れ、真似て楽しむ活動を行います。音声で意味を伝え合う間に英語のルールに気づかせ、さらに読ませて気づきを確認する指導が、高学年「教科」の下支えになります。単語の並ぶ文を聞き、話し、読めるようになる指導が「書くこと」に繋がります。デジタル化が進む今、個々に機器を操作し文字を見て「音」と「意味」を確かめ、文意によって声調を変えながら音読を楽しみます。読めたことを書いて英語のルールに気づいていく指導が、続く英語学習の基盤になります。その指導例を資料と共に紹介したいと思います。

②P1 【OL】 英語の発音 —リズムと音連結を中心に— 5月3日(土祝) 14:00~16:00

講師: 小菅 和也 (武蔵野大学名誉教授・1993年度パーマー賞受賞)

英語の発音にはさまざまな要素がありますが、この講座では、「英語らしさ」に非常に重要な「リズム(強弱)と音連結」を中心に取り上げます。英語の音声は、強弱の差が非常に大きいことが特徴です。また、単語を越えて音がつながることも重要です。具体例を整理してたくさん挙げますので、オンラインですが、画面越しに一緒に練習しましょう。まずは教師自身の発音を確認する、というのが主眼です。生徒・児童にできるだけ質の高い音声インプットを与えることを目指しましょう。関連として、個々の音素(たとえば/n/やあいまい母音等)の発音にも触れる予定です。また、時間の許す限り英語発音に関する質問も受けたいと思います。

③A2 【OL】 小学校英語教育に必要な指導技術 5月31日(土) 19:00~21:00

講師: 粕谷 恭子 (東京学芸大学)

外国語活動・外国語の授業で先生は何をしているのでしょうか。多くの場合、クラスルームイングリッシュを駆使して「よく聞きなさい」、「5回繰り返しなさい」、「じゃんけんをしなさい」など指示をするだけで指導らしい指導はしていないのではないのでしょうか。できないことができるように、わからないことがわかるようにするための、ほかの授業では当たり前の指導技術についてご紹介します。10年間の英語教育のうち4年間をあずかる小学校英語教育が、いつまでも楽しさの追求や英語嫌いを作らない、といったレベルの目標で満足してよいとは思えません。中学校にしっかりつなげる指導についてご一緒に考えましょう。

④P2 【対面】 中学生のための言語活動と Oral Introduction 6月7日(土) 14:00~16:00

講師：伊藤 雄二（大東文化大学・2000年度パーマー賞受賞）

この講習会では、まず初めに、「生徒中心のQ-A活動（私案）」について触れる予定です。よりスムーズな言語活動と、発表とやりとりの関係を考えてみましょう。続いて、Oral Introductionの「準備」と「実際」の2つの関連性に焦点を当てます。特に「準備」のノウハウに触れながら、この二つの関連性を授業に活かすノウハウを身につけていただくことを目標にします。また、Oral Introductionと板書計画に触れ、「準備」と板書計画の関連性も説明します。さらに、Oral Introductionを準備するためのチェックリストにも触れます。

⑤A3 【OL】 コミュニケーション活動を楽しく ～英語を「学ぶ」から「使う」へ～

講師：及川 賢（埼玉大学） 6月21日(土) 18:00~20:00

英語を身につけるには、文法や語彙を「学ぶ」と、実際に「使う」経験の両方が不可欠です。しかし、日本では英語を使う機会が限られているため、学習者が意識的に使用する場を増やす必要があります。特に学校の授業では、英語を使ったやりとりや活動を積極的に取り入れ、実践的な学習環境を作ることが重要です。これは学習指導要領の方針とも一致し、生徒の英語活用力を育むことを目的としています。本講演では、授業での具体的なコミュニケーション活動例を紹介し、生徒が積極的に参加できる環境作りの工夫についても触れます。実践的なアイデアを提供し、英語教育の現場で役立つ内容をお届けしたいと考えています。

⑥W1 【対面】 【小】 学びを支える指導者と子どもとの「やり取り」 6月22日(日) 13:00~15:00

講師：永井 淳子（田園調布雙葉小学校他）・町田 協子（東洋英和女学院小学部）

英語学習のスタートである小学校で、まず大切にしたいことは音声の基盤づくりです。子どもたちは指導者との「真実味のあるやり取り」を通して英語を聞き、「こう言いたいときには、このような表現をこんなふうにするのだな」と頭を働かせながら、英語らしい音声・音の流れを徐々に獲得していきます。

実際に、様々な活動を通して指導者と子どもたちとのやり取りを体験していただきながら、子どもたちの学びを支えるやり取りについてご一緒に考えたいと思います。

⑦A4 【対面】 『音読の教科書』の著者による生コーチング 6月29日(日) 14:00~16:00

講師：静 哲人（大東文化大学）

『日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる音読の教科書』（テイエス企画）の第3章（物語）、第4章（スピーチ）を中心にして音読のコーチングをいたします。教材である『音読の教科書』をご準備の上ご参加ください。英語教員になってしまうとほとんどない、発音や音声能力のブラッシュアップの機会していただければと思います。自身の発音にあまり自信がない教員の方・学生の方に来ていただきたいです。

⑧P3 【OL】 高校：アウトプット活動とその指導手順 7月12日(土) 16:00~18:00

講師：矢田 理世（筑波大学附属高等学校・2019年度パーマー賞受賞）

たくさん英語を覚えさせたい、と、授業ではインプットを意識されている先生が多いと思いますが、その先の目標は何でしょうか。宿題に課してテストで定着度を確認することも大切ですが、学んだ語句や文法を用いた表現活動を授業に取り入れてみませんか。アウトプットへの流れを見通して授業を組み立てることで、生徒も先生も同じ方向を向いて授業に臨むことができます。準備から発表、振り返りまでの一連の活動で生徒たちの学びが深まり、達成感を持つことができます。今回は、個人やグループで取り組める、ライティングやスピーキングの活動例と指導手順をご紹介します。

⑨A5 【OL】 教科書単元を用いた要約文作成における段階的指導（高校） 7月19日(土)

講師：北出 義伸（立正大学付属立正中学校高等学校） 16:00~18:00

英語で要約を作成するには多くの過程をたどるため、教科書単元終了後に一度にうまく整理して処理することは難しく感じる場合があります。しかし、要約作成はコミュニケーションで情報を送受信する起点となるため、とても大事なスキルです。そこで、要約作成に必要な過程を意識した活動内容（「探す」「捨てる」「捨てる」「つなげる」「換える」）を交えながら授業を進行することで単元理解を深め、生徒がそれぞれの到達度や必要度に応じて意欲的に教科書本文の要約を書けるようになる取り組みをともに考えたいと思います。

⑩P4 【OL】 デジタルツール活用時代の英語教師の役割について～Teacher Talk を update しよう～

講師：津久井 貴之（群馬大学・2011 年度パーマー賞受賞） 7 月 25 日（金） 17:00～19:00

「言語活動を中核に据えた授業」では、Teacher Talk の重要性はますます高まり、教室をコミュニケーションの場として、また、コミュニケーションを通して学びを深める場として機能させるための役割が教師に求められています。生成 AI ほか、デジタルツールを活用した指導事例や指導手順の変化にも触れながら、Teacher Talk に焦点を当てて受講者の皆さんと検討し、整理していきます。

受講者の皆さんが各自の現時点の Teacher Talk に関する指導上の課題から 1 つ改善する "update" の視点を大切にもらえるよう、教科書題材や本文、生徒の発話例を使用した教師の発話や発問、フィードバックについて具体的な授業場面を想定した演習も行います。

⑪W2 【対面】 【中・高】 授業づくりの基礎・基本—Oral Introduction の考え方 7 月 26 日（土）

13:00～15:00

講師：小菅 和也（武蔵野大学名誉教授・1993 年度パーマー賞受賞）

語研が提唱する、Oral Introduction を核とした英語授業の基本的な考え方や留意点、原則的な組み立て方について確認します。Oral Introduction の考え方、実際の進め方をできるだけ具体的にお伝えします。やさしい教材を例に、参加者の皆さんを生徒に見立ててサンプルを示します。その後、その場で短い教材を配布して、参加者の方に Oral Introduction を準備して実演していただく予定です。参加者の人数により、全員に実演していただくのは難しいかもしれませんが、ワークショップ形式で進める予定です。語研編『英語授業の「型」づくり』（大修館書店）第 1 章にほぼ相当する内容です。

⑫W3 【対面】 【中】 中学校の英語指導（導入から言語活動まで） 7 月 27 日（日） 13:00～15:00

講師：小菅 敦子（元東京学芸大学附属世田谷中学校/元武蔵野大学他・1997 年度パーマー賞受賞）

中学校の英語指導において、「導入から言語活動までの一連の指導」についてお話いたします。教室という限られた場面で、いかに生徒と必然的な英語でのやり取りをしながら新教材を導入するのか、そして最後はそれを生徒のリアルな世界で使ってもらえるか、具体的に提示いたします。Oral Introduction、ペアワーク、即興的なやり取りを促進するための段階的指導、リテリング、Show & Tell、テキストの内容をさらに発展させる発表等です。さらにライティングへつなげる指導についても触れたいと思います。

⑬W4 【対面】 【高】 高校の授業における文法事項の導入 8 月 1 日（金） 13:00～15:00

講師：吉田 章人（日本女子大学附属高等学校）

高校の英語授業における文法指導について考えます。文法は、英語の運用能力を支えるとても大切な知識です。しかしその指導法は、入試対策としての演習形式に終始しがちになっています。本講義では、解説と問題演習だけで済ますのではなく、コミュニカティブを意識した「使える文法」の習得を目指した英語の授業の一例を提案いたします。入試問題が解答できるだけでなく、大学に入学した後も役立つ文法を教える方法について、考えてまいりましょう。

⑭A6 【OL】 フォニックス活用法—英単語の綴りの教えかた 8 月 2 日（土） 10:00～12:00

講師：手島 良（武蔵高等学校中学校）

英語の綴りと発音の間にある規則を適切に指導したいものです。ただ、その規則はかなり複雑で、一度教えれば身につくというものではありません。日々の授業の中で、（生徒に「またかあ～」と思わずに）しつこく何度もその規則に触れさせていくことが重要です。規則が定着するだけでなく、生徒が綴りを覚える負担が減り、発音も向上する—そんな良いことだらけ（？）の指導法をご紹介します。

⑮A7 【対面】 文法指導に役立つ音声指導

8月5日(火) 14:00~16:00

講師：久保野 雅史(神奈川大学)

文法指導において音声は極めて重要な要素です。本講座での音声指導は音素の指導のことではなく、文を構成する句(フレーズ)の切れ目や、句相互の関係を明確に示す、休止や抑揚などの音調を指します。Becky teased the boy with the fluffy duck.で、アヒルの人形を手に行っているのはBeckyか男の子か、書き言葉では曖昧です。しかし、with the fluffy duckがどの語句を修飾するのか、音声では紛れなく表すことが可能です。日本語でも同様で、「母親と子ども4人が助かった」の曖昧性は、音調で排除できます。言語に普遍的である構造と音調の関係について、教科書の用例等を構造を意識して音声化することを通して、教員としての音声表現力を高めていきましょう。

⑮A8 【OL】 対話で変える授業づくりー生徒の思考と学びを深める授業改善のポイント

講師：福島 玲枝(畿央大学)

8月12日(火) 10:00~12:00

本講習会では、リテリングから対話へと段階的に発展させる授業づくりを通じて、生徒の主体的な学びを促す効果的な方法を探ります。リテリングは時に単調な活動に見えますが、意味のある対話を無理ないタイミングで取り入れることで、生徒の思考力と学びを深める方法につながります。当日は、①リテリング実施手順、②対話を交えるポイント、③評価と自由な対話による思考の育成、の3つの観点から、授業改善のポイントを解説します。さらに、これらの手法を実際の授業に取り入れる際の具体的な手順や注意点についてもお伝えしたいと思います。

⑰W5 【対面】 【小】 子どもたちとやり取りしながら進める授業(中学年) 8月17日(日) 10:00~12:00

講師：相田 真喜子(田園調布雙葉小学校・東京学芸大学)・川副 理美(田園調布雙葉小学校)

3年生からの外国語活動で、「やり取り」をしながら英語の音を聞かせ始めます。3・4年生の反応はとて素直で、英語や日本語、時にはジェスチャーなどで一生懸命に応えよう、伝えようとしてくれます。私たちは指導者として、子どもたちにどんな英語の音を聞かせ、子どもたちとどんなやり取りをすれば良いのでしょうか? 日々向き合っている子どもたちとのエピソードを共有し、参加者のみなさまと実際に活動を試しながら授業の進め方をご一緒に考えたいと思います。

⑰W6 【対面】 【小】 授業に取り入れたい文字遊び・歌やライム 8月17日(日) 13:00~15:00

講師：石田 裕子(品川区教育委員会小学校英語専科指導員)・渡辺麻美子(明星学園小学校)

「読むこと」「書くこと」の指導に先立ち取り入れておきたい、音と文字の関係に気づかせる文字遊びの活動をご紹介します。実際に活動を体験していただきながら、何のためにやる活動かなどもご一緒に考えてみましょう。また、歌やライムは、英語の音声・リズムの習得に欠かせない教材の一つです。「読むこと」につながる活動でもあります。どんな音声(音源)を聞かせ、どんなふうに導入したらよいでしょう。教室での子どもの様子なども話題にしつつ、ご一緒に試してみましょう。

⑰A9 【OL】 思考力・表現力を鍛えるための英語授業

8月20日(水)

～英語ディベートのエッセンスを活用した論理・表現～

10:00~12:00

講師：河野 周(聖光学院中学校・高等学校/2024年外国語教育研究賞受賞)

近年、学習指導要領にも「ディベート」に関する事項が記載されるようになり、その重要性が認識されつつあります。しかし一方で、私自身が英語ディベートのワークショップ講師として全国の学校を回る中で、現場の先生方から「ディベートをどのように始めればよいかわからない」「ディベートは実施しているが、形だけになってしまい、生徒の力をどのように伸ばせばよいかわからない」といった声をよく耳にします。そこで、本講演では、競技ディベートや試合の説明にとどまらず、ディベートを初めて学ぶ方から、すでに取り組んでいる方にも役立つ、英語ディベートのエッセンスを活かした段階的なアクティビティを紹介します。こうしたアクティビティを通じて、思考力・判断力・表現力をどのように育成し、将来、世界に飛び出して活躍できる生徒をどのように育てていくかについてお話しします。

②0W7 【対面】 【中】 音声導入からリテリングへ

8月23日(土) 13:00~15:00

講師：日高 由美子 (東京都立桜修館中等教育学校)

英語で会話を続けるためには、相手の言っていることを理解するリスニング力、自分の考えたことを英語で話すスピーキング力が必要です。さらに英語でのやり取りを続けるためには相手とのインタラクションが重要です。それらの英語力を身に着けるためには、授業の中でどんな活動ができるかを考えていきます。

本講座では、教材内容に合わせた音声導入の具体例を紹介し、授業の最初に歌や Small talk, Chat などの Warm-up 活動で英語の雰囲気を作ること、Oral Introduction で教科書内容の導入を英語で行う方法などです。さらに、読んだ内容を自分の英語で再話する活動を授業の中でどのように行えばいいのか、実際のコミュニケーションに近い活動を授業の中で行うにはどうすればいいのかなどについて、様々なアイデアを参加者の皆さんと共有します。

②1A10 【OL】 音読活動をどう展開していくのか

8月24日(日) 10:00~12:00

講師：江原 一浩 (高崎経済大学・群馬大学)

「音読」は、日本の教室で最も頻繁に行われている活動です。また、テレビやラジオの英語教育番組でも、必ず取り入れられているものでもあります。比較的容易に実施できるこの活動は、大きな学習効果が期待できる練習方法です。が、あまりに一般的で、当たり前のように行われている活動であるが故に、その意義や目的、授業での位置づけや実施方法、さらに、種類や難易度等について十分に理解されないまま展開されているようです。この講座では、「音読」の基礎・基本に立ち返り、音読活動を科学的視点からも見直すとともに、生産活動への橋渡しとなるその過程を皆様とともに再検討していきたいと思えます。

②2A11 【OL】 批判的思考力の育成—若林俊輔先生の教材研究をヒントに

8月30日(土)

講師：若原 保彦 (秋田大学)

16:00~18:00

平成 29・30 年の学習指導要領の改訂により、「知識・技能」を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」の育成が求められるようになりました。この改訂で登場した3つの評価の観点には、国立教育政策研究所が2013年に提案した「21世紀型能力」の影響があったと考えられます。本講義では、「21世紀型能力」の一つである「論理的・批判的思考力」の中でも、特に「批判的思考力」に注目し、この力を伸ばすにはどのような活動や教材研究が求められているのかを、若林俊輔先生の教材研究をヒントに紹介していきます。

②3W8 【対面】 【中】 初心者集まれ！初めてのオーラル・イントロダクション

9月6日(土)

講師：伊藤 雄二 (大東文化大学・2000年パーマー賞受賞)

13:00~15:00

この講習会では、初めてオーラル・イントロダクションにチャレンジする方、及び、チャレンジしてもなかなかうまくいかないという方を歓迎します。何が不足しているかをご一緒に考えましょう。また、講義を聴くのではなく実際にオーラル・イントロダクションを経験してみましょう。そして、指導技術を少しずつステップアップするためのノウハウを身に付けましょう。失敗は大歓迎です。そして、失敗しながらも前向きに努力できる方、この指止まれ！そういう方をお待ちしています。

②4A12 【OL】 生きる力を育てる英語の授業

9月14日(日) 13:00~15:00

講師：望月 正道 (麗澤大学)

幼稚園から高等学校までのすべての学習指導要領で育成が求められる生きる力をつける英語の授業を考えます。なぜ生きる力を育成する必要があるのか。生きる力とはなにか。生きる力を構成する3つの要素をどのように育成するのかについて考えます。知識・技能の育成についてはよく知られていると思えますが、その理論的裏付けについても考えます。思考力・判断力・表現力の育成についてもさまざまな試みがなされていますが、その能力が身についているかの評価方法についても考えます。英語授業でどのように主体的協働的な深い学びを身につけさせるかについて、参加者のみなさんと考えたいと思えます。

②5A13 【対面】 パフォーマンステストの WHAT と HOW

9月21日(日) 13:00~15:00

講師：根岸 雅史(東京外国語大学世界言語社会教育センター)

「あなたはパフォーマンステストを行っていますか」と聞かれたら、答えはいろいろでしょう。でも、「パフォーマンステストを知っていますか」と聞かれたら、答えはたいてい「イエス」でしょう。ただ、どういうテストをパフォーマンステストだと思っているかは、人によって意外と違います。この講座では、「パフォーマンステスト」が備えるべき条件について、具体例とともに見ていきます。その上で、その作り方をワークショップ形式で体験します。さらに、そこから、観点別評価における「思考・判断・表現」の評価のあり方についても考えていきます。

②6W9 【小】 子どもたちとやり取りしながら進める授業(高学年) 9月28日(日) 13:00~15:00

講師：永井淳子(田園調布双葉小学校他)・松原木乃実(聖マリア小学校)

「聞くこと」「話すこと」に加えて「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しませていくことになる高学年の外国語科の授業。ともすると、すぐ文字を見せ、書かせる活動を行ってしまいがちですが、やはり、まず指導者が子どもたちとたつぷりとやり取りを行い、英語表現への理解を促したいと思います。高学年の指導において、どのようなやり取りが子どもたちの学びの役に立つのか、実際に体験していただきながら、語順や文構造への理解を深める文字の効用についても一緒に考えたいと思います。

②7A14 【対面】 中学英語 ～教科書題材の活用について～

10月5日(日) 10:00~12:00

講師：石川 ひろみ(埼玉県所沢市立北野中学校)

教科書を1冊終えたときに、卒業するときに、さらにずっと後になってから何かのきっかけで、生徒たちが「あ、その話、英語の授業でやった」とつぶやいてくれることを期待して授業をしたいと思っています。教科書にはより深く知りたいと思わせる題材が多く扱われています。題材に関する資料を収集し、それらをどのように授業で活かすかを考えることが教材研究の山場のひとつだと思います。日々の小さな実践例をご紹介します、参加者の皆さんからもご意見をいただきながら、「こんなこともできそうだね」とアイデアを共有できる2時間にしたいと思います。

②8A15 【OL】 生徒の思考を深める発問と活動の工夫

10月26日(日) 10:00~12:00

講師：鈴木 文也(高崎健康福祉大学)

英語の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教師は何ができるでしょうか。本講座では、私が中学生を対象に行った授業ビデオを元に、どのようなタイミングでどのような発問をどのように行ったか紹介します。その際に、Mohan(1986)が開発したThe Knowledge Frameworkに着目し、論理的表現や論理的思考を鍛えるためのOral Introductionやスピーキング、ライティング活動について考えます。最後に、教科書のレッスンを題材に、具体的な発問や活動を参加者の皆さまと一緒に作り上げ、明日からの授業につなげられるようにしたいと思います。

②9W10 【対面】 【高】 題材内容中心の Oral Introduction

11月3日(月祝) 10:00~12:00

講師：山崎 勝(埼玉県立和光国際高等学校)

題材内容のsummaryから逆算してOral Introductionを作ってみましょう。授業のゴールをStory RetellingやSummary Writingと想定して、どのような英語のやり取りで授業の導入を組み立てるかを考えます。Oral Introductionの原稿を作成してそれに基づいて練習します。併せて、板書計画や視覚教具の効果的な活用、生徒への発問、口頭練習のさせ方も実際にやってみましょう。Oral Introductionは実技なので、書籍を読んだり、説明を聞いただけでは要領がつかみにくいものです。対面の講座であることを活かして、教師役と生徒役に分かれて実技の練習をしてみましょう。

③0W11 【対面】 【高】 発表につなげるための Oral Introduction 12月21日（日）13:00～15:00

講師：浅野 伸子（東京都立小山台高等学校）

内容を理解したあとで、それを発表できる力をどのようにつけさせるかの一つのプロセスを提案します。理解して満足するのではなく、それをわかりやすく整理して伝えることは大切な能力です。授業内でその手助けをどのように与えるかを示し、参加者の皆さんからもアイデアを出していただきながら対面ならではの講習したいと思います。

③1A16 【対面】 リテリング指導：基礎から発展まで 12月26日（金）13:00～15:00

講師：佐々木 啓成（京都府立鳥羽高等学校／2022年外国語教育研究賞受賞）

リテリング指導にトライしてみたいけれど、なかなかトライできていない先生方や、リテリング指導をしているが、もう少し発展させたリテリング指導をしたいと思われている先生方が対象の講義です。リテリングの利点や、手順といった基礎理解だけでなく、実際に体験していただきながら、一緒により良いリテリング指導について考えたいと思っています。また、リプロダクションからリテリングへと発展させるための指導アイデアや、自己表現を組み合わせた実践例なども紹介したいと思っています。

③2P5 【OL】 （仮）筑波大附属中の英語教育 1月17日（土）14:00～16:00

講師：筑波大附属中学校英語科（2024年度パーマー賞（学校賞）受賞）

内容詳細検討中

③3A17 【OL】 授業を生かすテストづくりー指導と評価の一体化を目指してー 1月25日（日）

講師：山本 智恵子（白百合学園中学高等学校） 10:00～12:00

文脈と共に新語を導入する、それぞれの言語形式を用いる必然性のある使用場面を設定し導入、練習をさせるといった授業づくりの基礎基本は、テストづくりにおいても生かしていきたいところです。一貫性のある文脈を伴った語彙問題、生徒たちの実生活を想起させる使用場面を用いた文法問題、教科書をリライトした英文や類似文を用い、授業で指導したリーディングやライティングのストラテジーが身につけているか到達度を測る問題など、中学高校の定期テストを中心にペーパーテストやパフォーマンステストの実例を引きながら、生徒たちの英語学習の質を高めるテストのあり方について、参加者の皆様と共に考えたいと思っています。

③4W12 【対面】 【高】 Oral Introduction からやり取り、そして Writing へ 2月8日（日）

講師：千田 享（埼玉県立浦和西高等学校） 13:00～15:00

英語によるやり取りや Writing に苦手意識がある生徒は多いと思います。しかしスラスラと話したり書いたりすることに憧れているのも事実です。どのような準備や訓練をしておけば、やり取りや Writing が滞りなくできるようになるのでしょうか。本講座ではやり取り、あるいは Writing をゴールに設定するとしたら、導入の段階である Oral Introduction ではどのような仕掛けをしておけば効果的かを考えたいと思います。何のために Oral Introduction を行うのか、その必要性についても触れます。

③⑤A18 【OL】 学習者の多様性に対応するための英語授業での ICT 活用術

2月15日(日)

講師：草間 浩一（武蔵高等学校中学校）

10:00~12:00

「GIGA スクール構想の実現へ」（文部科学省 2020）には「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する」ことを目指すと記されています。実際にどんな物を使い、どんなことができるのかを、実践例を通じて考えたいと思っています。合わせて学習者の多様性を測る方法や、多様性に応じた支援方法などにも言及します。特定の ICT 環境に依存しない、アナログであっても応用できる内容にしたいと考えています。

③⑥P6 【OL】 英語が溢れる授業づくり—3年間を見通した指導計画の作成及び

年度初めの準備とテストづくり

2月22日(日) 10:00~12:00

講師：松下 信之（大阪府教育庁 首席指導主事・2014年度パーマー賞受賞）

表現の能力（「話すこと」と「書くこと」）に焦点をあて、高校生が即興で自分の言葉を用いてコミュニケーションを図ることができるようになるために、3年間の指導計画をどのように立てるのか、また、各学年における指導をどのように行うかについて、発表者の高等学校における実践を踏まえ、提案します。また、観点別の学習状況評価を行うにあたり、定期テストの作成方法や、パフォーマンステストの実施方法、それぞれにおける評価方法についても具体的な例をお示しします。さらには、これらの取組みをより効果的に実施するために、年度始め（または前年度中）にどのような準備を行っておけばよいかについてお話します。

③⑦P7 【OL】 英語教師裏街道：節目節目で大切にしてきたこと

3月7日(土) 17:00~19:00

講師：吉澤 孝幸（秋田県立秋田南高等学校中等部・2018年度パーマー賞受賞）

英語教師として歩んできて35年となります。振り返ると20代、30代、40代、そして50代で教室で改善したい点とそれに対するトリートメントは移り変わってきました。英語教師としての職能成長を振り返ります。特に、語研でのオーラルイントロダクションが、教室における他のどのような場面で生かされたかについてもふれたいと思います。さらに、教室における生の実践と理論に「のりしろ」を設けることは、いまだに難しいと感じています。このことについても、生の実践と理論が、少しでも融合できるようにしてきた自分なりの歩みをお伝えしたいと思っています。

③⑧W13 【対面】 【中】 英語でのやり取りを通した文法の導入から教科書を活用した言語活動まで

講師：栖原 昂（筑波大学附属中学校）

3月21日(土) 13:00~15:00

中学校の授業では、新出文法事項と教科書本文の内容の両方を適切に導入し、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが大切です。今回は、特にイメージを持ちにくい文法事項の導入場面について、自然な英語でのやり取りを通して導入する方法を一緒に考えます。また、導入した文法事項を活用する機会として、教科書本文の内容を活かした言語活動を考えます。導入や活動の具体例をできる限りお示ししながら、参加された方も実際の導入や活動を考える時間も作ればと思います。

③⑨W14 【対面】 【小】 新学期、最初の授業で大切にしたいこと

3月29日(日) 13:00~15:00

講師：松原木乃実（聖マリア小学校）・渡辺麻美子（明星学園小学校）

春、新学期を迎え、3年生にとっては初めての英語授業が始まります。4・5・6年生も学年がひとつ上り、気持ちを新たにしていることでしょう。指導者と子どもたちとの「やり取り」で進めていく授業、英語を使うことを通して英語を学び身につけていく授業実践の開始です。子どもたちが「聞いていると結構わかっちゃった!」「先生と話して楽しかった!」「文字も読めるようになりそう」などと感じられる授業を1年間続けていくためにどのような準備や工夫ができるのでしょうか。幾つかの活動を体験していただきながら、ご一緒に考えたいと思います。